

《本書の使い方》

1. 問題を解く前に「チェックポイント」を確認

チェックポイントは3段階に分かれているよ。

[ホップ]: まぎらわしい言葉を区別しよう

[ステップ]: 目のつけどころをはっきりさせよう

[ジャンプ]: 書いてあることを言いかえよう・おきかえよう

詳しくは裏面を見てね

2. 3段階の問題は徐々に難易度アップ↑

ホップ・ステップ・ジャンプと少しずつ難易度が上がるよ。段階を踏むから取り組みやすく今の学力や時間と相談しながら、自分に合った使い方ができるよ。

3. 自分で答え合わせをする

ページをめくると解答・解説があるので、自分で答え合わせをしよう。全ての問題に「言葉での説明」「式」「図」と3つの解説がついているので、間違えたところが一目でわかるよ。

4. 最後は力だめし問題に挑戦

ひととおり解いたら「力だめし問題」にチャレンジ。不答が多かった単元については、もう一度「チェックポイント」の確認をしよう。

『基礎力』が定着したら『まいにち算数』で『実践力』を!

中学受験のための1日5題 まいにち算数

【特長】

① 1日5題→90回で450題

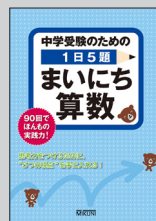
② 問題は解法の決め手となる「視点」で構成

③ 1セット(6回分)が

ホップ・ステップ・ジャンプの3段階構成

◆ 定価: 本体1,200円+税 ◆ 判型: B5

◆ 頁数128頁 ◆ 発行: みくに出版



『ここから算数』の特長

特長1

“基礎の学び方”を学べる構成

本書は、構成自体が、学び方を教えているものです。

- ①「まぎらわしい言葉の同じところ、ちがうところをはっきりさせる」
 - ②「目のつけどころをはっきりさせて問題を読む」
 - ③「問題文の言いかえ、おきかえをして、問題のしくみをはっきりさせながら取り組む」
- という3つの段階を踏むことで、基礎から応用へと力が伸びていきます。

基本チェック

まぎらわしい言葉を区別しよう
図に表しながら、「まぎらわしい言葉や考え方」の、同じところ、ちがうところをはっきりさせる。この区別ができていれば、問題を解くときにどの考え方を使ったらいいのかわかる。

視点チェック

目のつけどころをはっきりさせよう
その問題を解くための糸口となる、注目すべきポイントを確認。これをヒントに、問題を注意深く読みながら自分で印をつけていくなど、手を動かす練習も。

算数のおもしろさがわかるコラム付き

入試問題に取り組みながら、算数のしくみが理解できます。

特長3

各テーマの最後にあるコラム「算数のつながり」では、身につけた知識がどのようにつながり、広がっていくのかわかることができます。驚きと発見から、算数がもっとおもしろくなるはずです。

視点チェック

書いてあることを言いかえよう・おきかえよう
問題文の言いかえ、おきかえをして、問題のしくみ、問われていることをはっきりさせる作業も必要。考えのあとを書き残そう。

コラム算数のつながり

意外や意外、「別の分野」と思っていたものも、しつは考え方の根本はつながっている。そんな発見を、入試問題を解きながら体験できるおもしろコラム

ホップ
基礎

ステップ

ジャンプ
応用

たくさん解くためのドリルじゃないんだ。学び方を学ぶための参考書だよ!

ぼくのつぶやきも参考にしてね

特長2

「言葉での説明」「式」「図」の3つの手法によるわかりやすい解説

算数でつまづかないために必要な考えたあとを書き残す3つの手法で解説しています。

- ▶ 文章にして、かかれていることを整理する
 - ▶ 式には単位・説明をつけて、何を求めたかわかるようにする
 - ▶ ペン図や線分図を使って、情報を見えるようにする
- この3つの手法は、自分でノートをつくるときに参考にもなります。



1 数え方—規則性の利用

基本チェック まぎらわしい言葉や区別しよう！

試合数

総あたり戦

どのチームも他のチームと対戦する。
Nチームの試合数は $N \times (N - 1) \div 2$

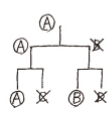
A	B	C	D
A			
B			
C			
D			

AがBに○(勝つ)、
BがAに×(負ける)

AがBと対戦する試合と、BがAと対戦する試合は同じだから、÷2をするよ

勝ちぬき戦

どのチームも1度負けると次の対戦がない。
Nチームの試合数は $N - 1$



試合のたびに、優勝チーム以外のチームが負けから1を引くんだ

植木算

両端に木を植える植木算

A地点～B地点の端から端まで木を植えるとき木の数-間隔の数=1



木が2本のとき間は1個で、木を1増やすと間も1増えるから、差は1のままだよ

まわりに木を植える植木算

何かを囲んで1つにつながらずに木を植えるとき木の数-間隔の数=0



木が2本のとき間は2個で、木を1増やすと間も1増えるから、差は0のままだね

等差数列

「1, 7, 13, 19」のように、最初の数(初項)に一定の数(公差)を足してできる数列を、等差数列という。

等差数列のN番目の数

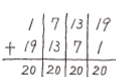
N番目の数=初項+公差×(N-1)



1番目から4番目までに、公差の6は、4-1=3回増える。植木算と同じ考え方だよ

等差数列のN番目までの数の和

N番目までの数の和
=(初項+N番目の数)×N÷2



逆順にした数列を足すと20が4つできるけど、和の2倍になっちゃうから、÷2するんだ！

8

1.規則性の利用

数表

自然数(1から始まる整数)を規則正しく並べて表を作ると、規則性のある数列が生まれる。

三角数

1=1, 3=1+2, 6=1+2+3
…のように、1から自然数を順に足した数を三角数という。

1	2	3	4
1	3	6	10
2	5	9	
3	4	8	
4	7		

(1), (2, 3), (4, 5, 6), (7, 8, 9, 10)のように三角形の形を作りながら並べると、1行目は三角数が並ぶよ！

平方数(四角数)

1×1=1, 2×2=4, 3×3=9, 4×4=16 …のように、同じ数をかけた積を平方数(四角数)という。

1	2	3	4
1	4	9	16
2	5	10	15
3	6	11	14
4	7	12	13

ほら、平方数がまっすぐ並んでいるよ

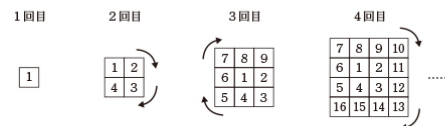
「基本チェック」の内容をおさえたら
ホップの問題に挑戦

ホップ

□(1) 野球の大会があり、20チームでトーナメント戦をします。全部で□試合です。

□(2) あるエレベーターで1階から5階まで上がるのに20秒かかります。このエレベーターで1階から8階まで上がるのに□秒かかります。

□(3) 1から始まる整数の書かれたカードを次の図のように小さい順にうすまき状に並べ、たてと横が同じ枚数となるようにします。



8回目には□枚のカードが並びます。

ページをめくれば解答と詳しい解説が。
「言葉での説明」「式」「図」で書かれているから、バッチリ理解できる！

9

ホップ(p.9)解答

(1) 19 (2) 35 (3) 64

解説

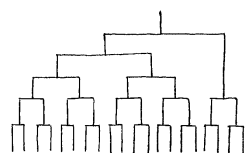
(1) トーナメント戦は勝ちぬき戦のこと。

勝ちぬき戦では、
Nチームの試合数は $N - 1$

式 $20 - 1 = 19$ (試合)

【参考】 チーム数を2で割ると、勝ちぬき戦の対戦を具体的に考えることができる。

20÷2=10 ……第1試合数
10÷2=5 ……第2試合数
5÷2=2余り1 ……第3試合は2
2÷2=1 ……第4試合(準決勝)は1
(1+1)÷2=1 ……第5試合(決勝)は1
10+5+2+1+1=19 ……全試合数

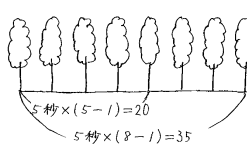


地道に対戦図をかいても数えられるね

ホップの答え合わせが終わったら
ステップ・ジャンプと進めていこう。
段階を踏みながら、基礎から応用へと
難度が上がる！

(2) 「両端に木を植える植木算」の考えを使う。
階を「木」として、階と階の間を、「木と木の間」と考える。

式 $20 \div (5 - 1) = 5$ (秒)
……1つ上の階に上がるにかかる時間
 $5 \times (8 - 1) = 35$ (秒)



(3) 毎回正方形ができていくから、カードの枚数は平方数になる。

1回目の枚数 $1 \times 1 = 1$ 枚
2回目の枚数 $2 \times 2 = 4$ 枚
……ここから、枚数は「回目×回目」と気がつく。

式 $8 \times 8 = 64$ (枚)

1回目 1枚=1×1
2回目 4枚=2×2
3回目 9枚=3×3
4回目 16枚=4×4
…

正方形の形にカードを並べているから、平方数ができるんだ！

ステップ 目のつけどころをはっきりさせよう

視点チェック

目のつけどころをはっきりさせよう

- 試合数
- 勝敗数の合計=負け数の合計に目をつけよう。
- 植木算と図形
- たての長さや横の長さの最大公約数に目をつけよう。
- 数表
- 等差数列をさがそう。

注目すべき
ポイントを確認

チャレンジ 書いてあることを言い換えよう・おきかえよう

視点チェック

書いてあることを言い換えよう・おきかえよう

- 試合の階数
- 図や表におきかえて、問題の意味をたしかめよう。
- 植木算の利用
- 植木算が使えない階図をかこう。
- 数表
- 表を見る向きを変えてみよう。
- 行番号、列番号とのつながりに着目して式をつくってみよう。

問題のしくみ、
問われていることを
はっきりさせる

コラム 算数のつながり



算数のつながり 1だけ並んだ数の2乗

「計算と図形をつなげる」と、「おもしろい規則性」の理由がわかるようになります。
次の問題に取り組みましょう。

$11 \times 11 = 121$, $111 \times 111 = 12321$ となります。
 $1111111111 \times 1111111111$ はいくつになりますか。

(筑波大学附属)

算数の知識のつながりと広がりがわかるコラム。入試問題を解きながら算数の仕組みを発見できます。

ひととおり解いたら「力だめし問題」にチャレンジ！

不答の多かった単元は「チェックポイント」をふり返り、基礎力の定着を確認！

力だめし問題

ホップ・ステップ・ジャンプで身につけた力、自分の成長を、確認するための力だめし問題です。この問題集に取り組んで、どれくらい実力がついたらかを確認してみましょう。不十分だと感じたら、もう一度チャレンジ！

中学受験のための学び方参考書 ここから算数
定価：本体1,200円＋税 B5 P.136 みくに出版